



支援P

災害ボランティア活動支援プロジェクト会議

「支援P」は、
NPOや企業などにより
構成された、
災害ボランティア活動を支える
ネットワーク組織です。

東日本大震災

活 | 動 | 報 | 告 |

災害ボランティア活動支援プロジェクト会議（支援P）

災害ボランティア活動支援プロジェクト会議（以下、支援P）は、ネットワークを活かして人材、物資、資金を活用し、岩手、宮城、福島の3県で災害ボランティアセンター（以下、災害VC）が多様な組織と連携しながら運営できるように支援するとともに、その環境整備に取り組みました。

人材を通じた支援活動

【運営支援者派遣】



災害VC担当者と協働とする運営支援者

【企業人ボランティア・プログラム】



災害VCで説明を聞き、泥出し作業を行う企業人ボランティア

被災地災害ボランティアセンターを支える「運営支援者派遣」

災害VCの運営を支援する運営支援者を全国から

合計 232 名派遣

延 7,305 日活動

合計 24 の市町村で活動（いずれも 2014 年 3 月末までの見込値）

人材

Page 3

企業と被災地をつなぐ「企業人ボランティア・プログラム」

企業、1%（ワンパーセント）クラブ、支援Pが協働したボランティア・プログラム

合計 20 回のボランティアバスを岩手県・宮城県・福島県へ派遣

49 社・グループから合計 642 名の企業人が参加

人材

Page 7

物資を通じた支援活動

【資機材提供】



災害VCの拠点となるプレハブ提供や、ボランティアが活用する資機材の提供

【うるうるパック】



被災地外で袋詰めを行い、被災者へ届ける

災害ボランティアセンター、ボランティアの効果的な活動を支援する資機材提供

プレハブ、レンタカー、パソコン、携帯電話等

金額換算総額 1 億 6,700 万円相当

59 社・グループからの提供

物資

Page 9

被災地に心を届ける「うるうるパック」

物資とともに応援メッセージを伝えるうるうるパック

第 1 弾では 68 社から 280 名のボランティアが参加し袋詰め

第 2 弾では 22 社・団体等から 250 名のボランティアが参加し袋詰め

合計 12,000 セットが被災地へ

物資

Page 10

資金を通じた支援活動

【復興応援資金】



地域コミュニティ再生のための事業へ助成

【特別共催】



東京で開催された東北応援イベントの特別共催

被災地コミュニティの復興を応援する助成事業

協働を通じたコミュニティ復興を目指す「復興応援資金」

2012 年度、2013 年度に 5 団体 8 事業へ約 6,700 万円を助成

東北とのつながりを応援する「東北応援ピレージ」特別共催

2013 年 3 月 29 日、30 日の 2 日間東京で開催。1,000 万円を助成

被災地の 18 団体が物品を販売、4,900 人が来場

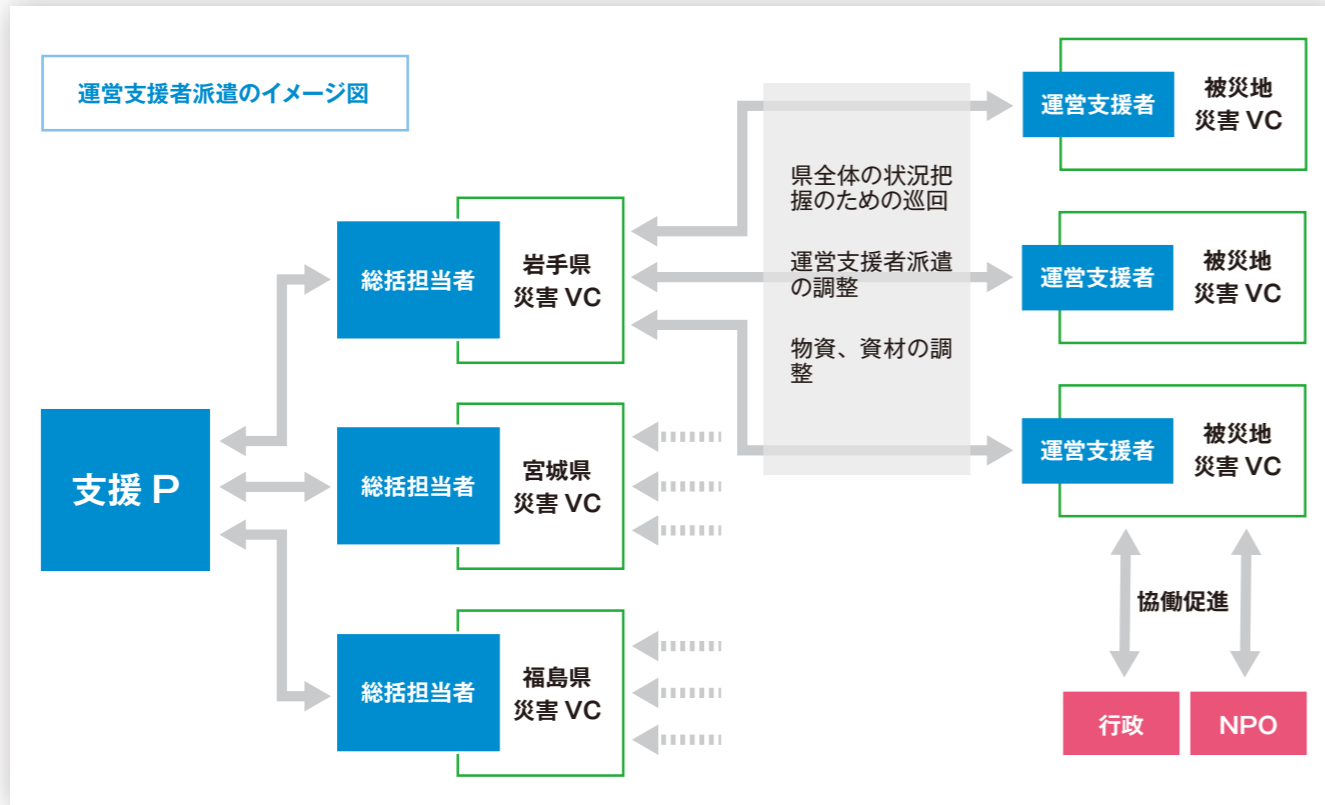
資金

Page 13

被災地災害ボランティアセンターを支える「運営支援者派遣」

支援Pでは、2011年3月12日に幹事会を開催し、同日、先遣隊が宮城県に向けて出発し、支援を開始しました。これまでは、全国社会福祉協議会が支援Pの協力のもとに実施してきた「災害ボランティアセンター運営支援者研修」の受講者を「運営支援者」として派遣していました。東北3県の被害は広域で、設置された災害VCも多く、継続的な支援が必要なことから、従来の受講者に加えて、さまざまな団体と連携して運営支援者を派遣しました。

運営支援者の役割は、災害VCの運営体制づくり、行政・NPO等との連携調整、復興・生活支援に向けた運営の方向性検討など多岐にわたります。また、各災害VCの運営支援だけでなく、県ごとに総括担当者を置き、県全体での状況把握・調整、各地の状況把握をするための「巡回」などを行いました。



福島県新地町災害ボランティアセンター



宮城県災害ボランティアセンター

支援Pは2011年3月12日から2014年3月までの間に延1,498名(実数232名)を岩手県、宮城県、福島県へ派遣しました。延派遣日数では7,305日にも上り、いずれの県でも延2,000日以上活動を行っています。また支援Pは災害救助法が適用された市町村を対象に支援をしており、今回は運営支援者を合計24市町村に派遣しました。その内訳は岩手県の8市町村、宮城県の9市町、福島県の7市町で、いずれも災害VCを中心に活動を行いました。

社会福祉協議会所属者と社会福祉協議会以外の所属者(NPO等)の延派遣日数

	社会福祉協議会所属者の延派遣日数	社会福祉協議会以外の所属者(NPO等)の延派遣日数	延派遣日数
巡回	0	287	287
岩手県	192	2,274	2,466
宮城県	323	1,964	2,287
福島県	1,000	1,265	2,265
合計	1,515	5,790	7,305

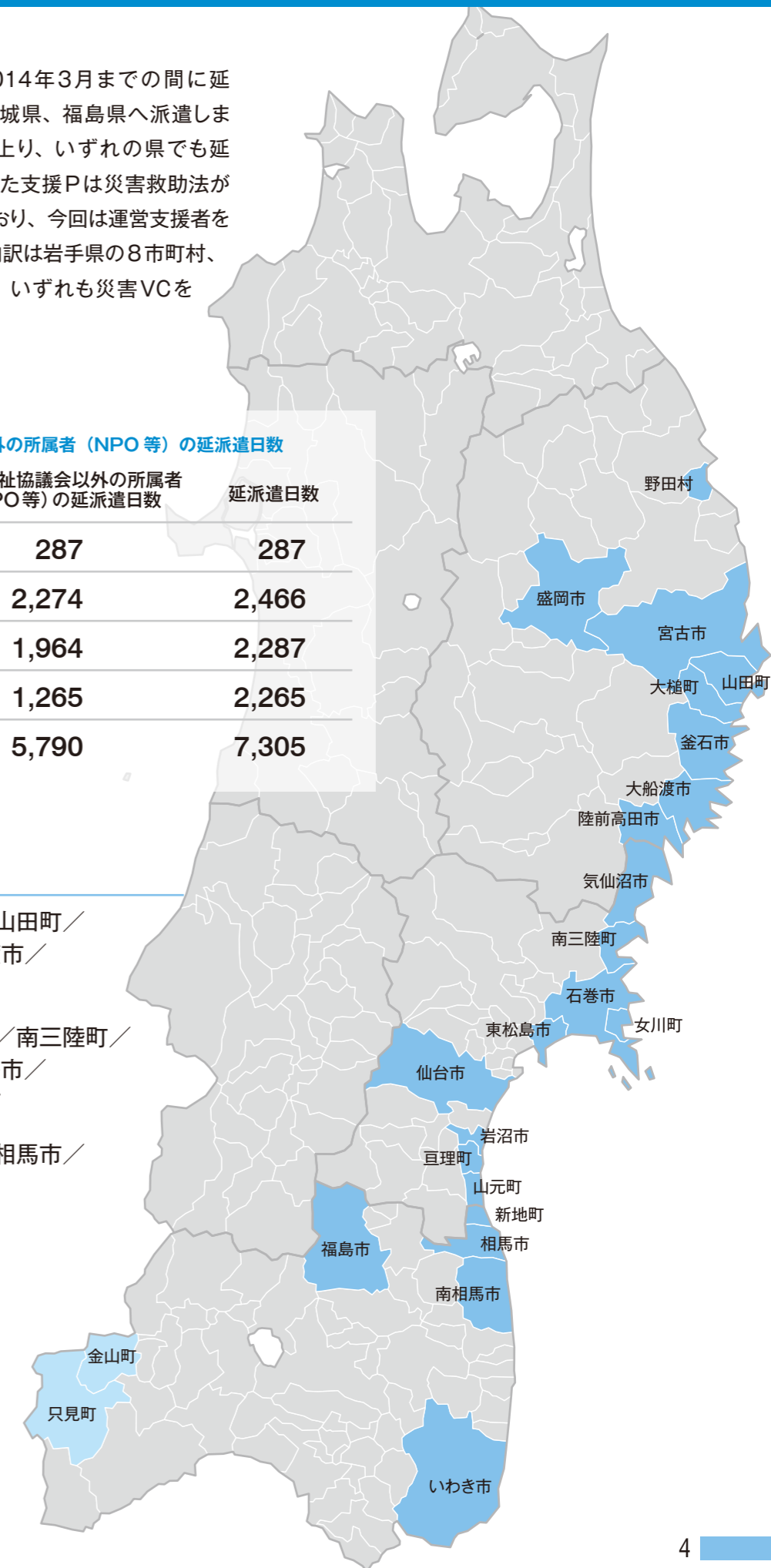
運営支援者の入った市町村

岩手県 県本部(盛岡市)／宮古市／山田町／大槌町／釜石市／大船渡市／陸前高田市／野田村

宮城県 県本部(仙台市)／気仙沼市／南三陸町／石巻市／女川町／東松島市／岩沼市／亘理町／山元町

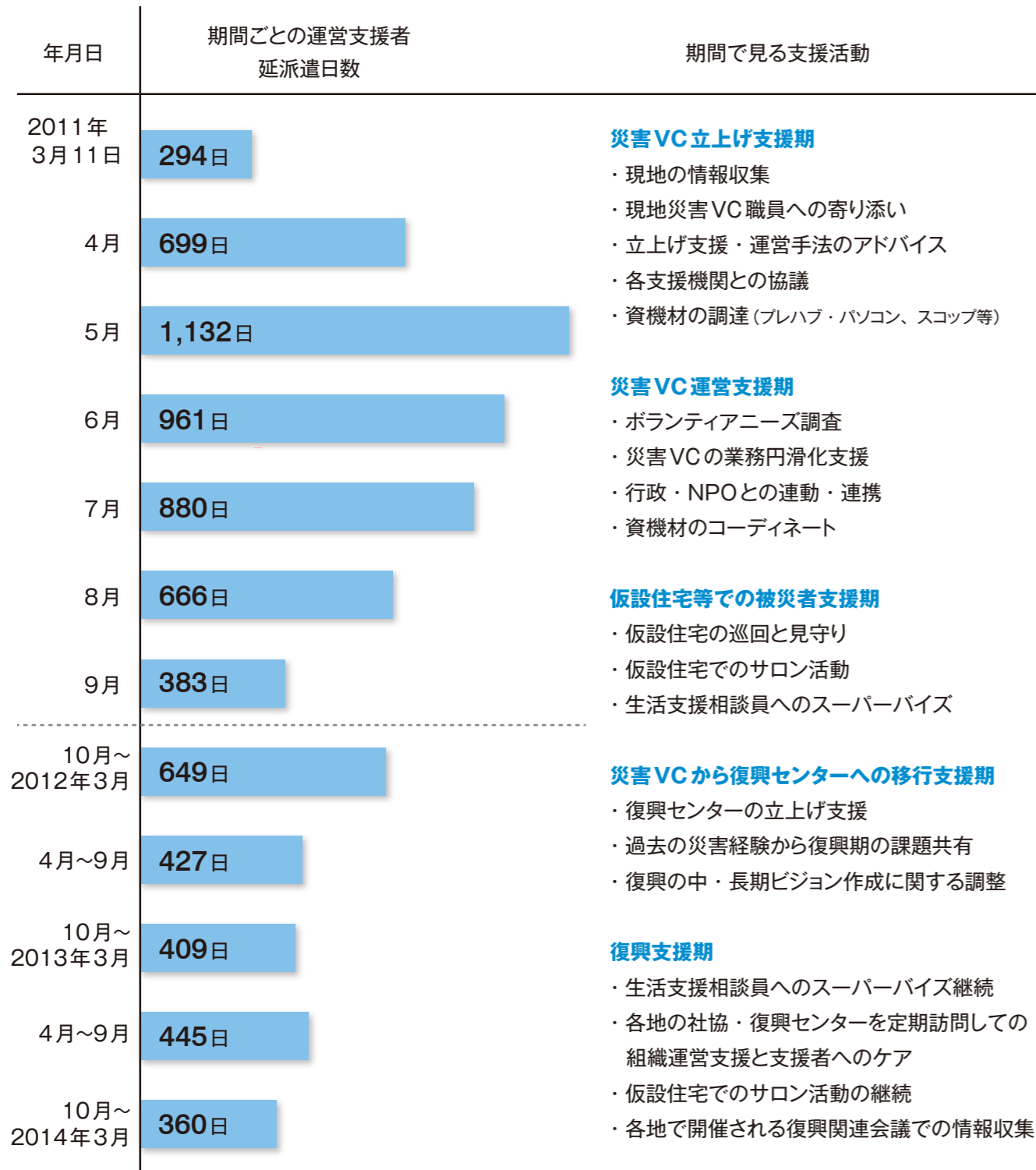
福島県 県本部(福島市)／新地町／相馬市／南相馬市／いわき市

※2011年7月に発生した豪雨災害の被災地 只見町、金山町にも派遣



初動期から復興期にかけて運営支援者が果たした役割

運営支援者の活動は、初動期においては主に災害VCの立上げ支援や運営支援でしたが、復旧・復興期に移行する中で活動内容も生活復興支援へと変化しました。東日本大震災のような大災害では、住宅再建や地域再生までの道のりは長く仮設住宅での生活も長引きます。その中で生活復興への支援も重要性を増してきています。



活動した運営支援者の声

情報収集して発信する役割を果たすとともに、仮設住宅に移行する時期に向けてその支援体制をどう整えるのかについて一緒に考えました。

被災者を訪問してのニーズ調査から、受け入れ団体の機能に応じたマッチング計画作成などを支援し、災害VC全体でチームワークがとれた活動ができました。

外部との調整・被災者および住民主体となるようなボランティア活動の提案をしていくことができるのが支援Pの役割ではないかと感じます。支援Pは現地職員と信頼関係を作ることができるので、長い支援も可能であると思います。

被害が大きいながらも対応が遅れていた地域に災害VCのサテライトを設置しました。また設置にあたり地域の有力者と社協との緩衝材となることができました。

様々な団体がニーズ調査を行っていましたが、その内容を災害VCに置きっ放しになっていました。後日、センタースタッフで協議し、外部支援者の力を得て再調査を行うとともに、必要な支援につなぎました。

災害VCの動線改善、ボランティアグループのコーディネート、ボランティアバスの受け入れ、行政との連絡調整、センター長および社協事務局長への寄り添いなど、概ね目的は達成できたと思います。

活動先での線量把握のため線量計を各VCに配付し安全な活動を支援しました。また、浜通りの町村が中通や会津地方などへ避難しているために当初は状況把握が困難でした。避難先での準備金の活用助言や資機材の支援ニーズへの対応を進めることで実態把握が進みました。



亘理町災害ボランティアセンターを巡回訪問



福島県災害VCで協働体制に向けて話し合い

企業と被災地をつなぐ「企業人ボランティア・プログラム」

支援Pでは、経団連の1%クラブと連携して、2011年4月下旬から8月中旬まで「東日本大震災の被災地の人々を応援する企業人ボランティア・プログラム(通称、企業人ボラバス)」を実施しました。

ゴールデンウィーク後のボランティア不足の解消を目的に、1%クラブが参加者募集を担当し、支援Pは、現地に派遣された運営支援者と後方支援者の連携でオリエンテーションや振り返り、活動先の調整などを担いました。後半には、前半に参加した人たちの中からコーディネーターの補佐を募り、参加者の視点で運営に参加してもらいました。

実施概要

派遣先 : 岩手県、宮城県、福島県内の災害VC
活動内容 : 現地の災害VCの動きに従い、被災地支援の活動を行う
 合計20クール、活動日: 91日(移動日を除く)
活動者数 : 企業人642名、コーディネーター+事務局69名
 延べ活動者数2,101人



釜石市で個人のお宅からの依頼で道路清掃



南相馬市での物資の仕分け作業

< 企業人ボラバス、その後 >

参加者のネットワークは、交流会やSNS、メールリストでの情報交換に留まらず、会社を動かし支援の輪を広げることに一役買いました。たとえば、他社の支援活動に関する情報を社内関係部署に伝えることで、社内報告会の開催、ボランティア活動の支援体制整備(休暇制度や活動資金補助等)、会社独自のボラバス実施、社内ボランティアグループの結成、被災地の商店の社内販売ルートの開拓などを実現しました。また、有志による継続的な被災地でのボランティア活動や観光旅行、会社が実施・協力する活動への相互参加、募金活動など、自発的な活動も生まれています。

活動した企業人ボランティアの声

企業人ボラバスでは、ニュースレターを発行して、参加者一人ひとりの思いを次の参加者に託してつないでいきました。いくつかの言葉をご紹介します。

私たち企業人は、つい仕事目線で効率を優先しがちですが、「泥を見ずに人を見る」「瓦礫なんてない、生活の一部や夢の欠片だった」という言葉を噛みしめながら作業するよう心がけました。

帰り際に現地スタッフの方が「岩手の復興の夢を見ながら帰ってください」と言われたことが印象に残っています。今後私たちは夢を見るだけでなく、企業人としてどのようにその夢、復興にかかわっていくかを真剣に考えていく必要があると感じました。

「また福島に来よう!」帰りの新幹線の中で本当にそう思いました。私たちの活動は長い復興の道のりの一歩にも満たないかもしれませんが、この体験を語り、広め、繋いでいくことはドンドンできます。私もその1人となって、福島のチアリーダーとしてがんばります。

参加企業一覧(49社・団体)

旭化成(株) / 旭硝子(株) / アフラック(アメリカンファミリー生命保険会社) / 伊藤忠商事(株) / SMBC日興証券(株) / 花王(株) / 兼松(株) / コニカミノルタホールディングス(株) / JX日鉱日石エネルギー(株) / シャープ(株) / 住友化学(株) / 住友商事(株) / 積水化学工業(株) / 双日(株) / ソニー(株) / (株)損害保険ジャパン / 第一生命保険(株) / (株)大和証券グループ本社 / 武田薬品工業(株) / 帝人(株) / 電源開発(株) / (株)電通 / (株)東芝 / 東レ(株) / 豊田通商(株) / 中日本高速道路(株) / 日産自動車(株) / (一社)日本経済団体連合会 / 日本アイ・ビー・エム(株) / 日本アムウェイ合同会社 / (株)日本政策投資銀行 / 日本たばこ産業(株) / 日本電気(株) / 野村ホールディングス(株) / パナソニック(株) / (株)日立製作所 / フィリップモリスジャパン(株) / 富士通(株) / 富士電機(株) / 芙蓉総合リース(株) / マイクロソフト(株) / 丸紅(株) / 三井化学(株) / 三井物産(株) / 三菱地所(株) / 三菱自動車工業(株) / 森ビル(株) / ライオン(株) / (株)リコー

企業の被災地支援担当者の視察

大震災1年後、企業の被災地支援担当者を対象とする被災3県の視察を、経団連事業サービスとの協働で実施しました。中長期の被災地支援に取り組む担当者、復興期における現地のニーズを把握し、今後の支援活動を開発・実施する上で役立つ情報やヒント、ネットワークを得ていただく機会となりました。

訪問県	日程(2012年)	参加者数
宮城	2月14日(火)、15日(水)	40名
福島	2月23日(木)、24日(金)	36名
岩手	3月5日(月)、6日(火)	36名



陸前高田市上長部まごころの郷で現場の声を聞く担当者

災害ボランティアセンターとボランティアへの資機材提供

支援Pでは、災害VCの運営に必要な資機材、ボランティア向けの活動資機材、災害VCが被災者に対して配付する救援物資を、1%クラブを通じて呼びかけ、多くの企業・団体のご協力を得て提供することができました(金額換算総額1億6,700万円相当)。さらに、現地で調達が難しい物資を、企業から寄付された活動資金で購入して提供しました。

災害VCの運営に必要な資機材

東日本大震災では、活動拠点を失った災害VCも多数ありました。そのため、プレハブや倉庫、携帯電話やパソコンなど事務資機材が必要となりました。また、スタッフの移動に必要な車両や自転車等も提供しました。



宮城県災害 VC 提供されたパソコン



陸前高田市に設置されたプレハブ

災害ボランティア活動に必要な資機材

ボランティア活動に必要な土嚢袋やブルーシート、ボランティアが安全・安心して活動できるよう、ゴム手袋、長靴やインソール、スポーツ飲料や冷凍ストッカーなどを提供しました。



多賀城市災害 VC に提供された長靴等や踏みぬき防止インソール

現場で資機材を調整した運営支援者の声

「広域ネットワークだからこそ」

数日でどんどん変化していく被災地の復旧期の活動。プレハブ、PC、車輛など、災害VC開設に必要な資機材はこれまでの支援Pの提供量をはるかに超え、しかも、被災地域はあまりにも広域でした。また、「土嚢が足りない」「ボランティアのケガや感染を防がなければ」など、次々に災害VCから相談が届くようになっていきました。物不足の被災地で運営支援者の支えになったのは、現地入りせずに現場を支えてくれる仲間からの電話でした。「企業の方が急いでくれたから、明日には着くよ」「こっちの道具の方がいいんじゃない?」。全国各地の協力者と現地をつなぎ、さまざまな資機材や物資を必要に応じて届けることができました。

<災害VCのIT環境整備の支援>

企業からの協力によって、災害VCに対して情報の管理・発信に必要なパソコンなどの物品提供や、技術的な支援を行う人的支援を行いました。また、日本マイクロソフト(株)の協力で、オンラインファイル共有システム、テレビ会議システムなどを提供するとともに、「ICTなんでも相談員」に常駐(株)アイシーエス、(株)SRA東北、(株)エフコムより派遣)いただくこともできました。

※そのほか情報支援関連で物品を提供いただいた企業名は、p.11の一覧表に含まれています。

被災地に心を届ける「うるうるパック」

うるうるパックとは、支援Pが1%クラブと協力して行う被災地に対する救援物資支援の1つです。被災地域の方々が必要とする物資を一旦県外で集約し、各世帯に配付できるように袋詰めして届けています。うるうるパックは、災害ボランティアセンターで、被災者の方々とコミュニケーションの円滑剤、被災者を応援する心を届ける手段として、知恵と工夫を凝らして配付されています。



東日本大震災では第1弾として、28社・団体から物資提供を受けて、被災地で力強く生きぬく子どもたちに届ける「新学年応援パック」「ともだちパック」、女性用「レディースパック」を準備しました。2011年4月5日、東京での詰合せ作業には68社から280名のボランティアが集まり、手書きのメッセージカードを添えて8,000セットの袋詰めを行いました。うるうるパック第1弾は、宮城県女川町をはじめとする被災地に届けられました。



東京での詰め合わせの様子



子どもたちへ手渡す 1%クラブ佐藤会長

第2弾は名古屋で実施され、5月7日、8日の2日間に、22社・団体の関係者と一般ボランティアが述べ250名参加して、水筒や弁当箱などの日用品と文房具の2種類4,000セットを袋詰めしました。小中学生には運動靴、長靴、傘と一緒に宮城県七ヶ浜町で配付されました。



名古屋での詰め合わせの様子



和光幼稚園で先生と園児を笑顔に

災害ボランティアセンター運営とボランティア活動に活用された物資

物品名	用途/使用者
ブレハブ	陸前高田市、釜石市、大槌町の各災害 VC
自転車	岩手県、宮城県、福島県の各災害 VC
レンタカー	支援 P (運営支援者が現地で利用)、岩手県、宮城県、福島県の各災害 VC
スクーター (含 保険、車両登録手数料等)	岩手県、宮城県、福島県の各災害 VC
土嚢袋	石巻市、気仙沼市、利府町、いわき市の災害 VC
ブルーシート	石巻市、気仙沼市、利府町、いわき市の災害 VC
ゴム手袋	岩手県災害 VC、宮城県災害 VC、石巻市、利府町、いわき市の災害 VC
ホワイトボード	気仙沼市災害 VC
タオル	気仙沼市災害 VC
軍手	いわき市災害 VC
使い捨てカイロ	岩手県災害 VC、いわき市災害 VC
スポーツ飲料	岩手県、宮城県、福島県の各災害 VC
バケツ	福島県災害 VC
ポリタンク (20ℓ)	福島県災害 VC
消毒液	福島県災害 VC
携帯電話	支援 P、各災害 VC
パソコンおよびソフトウェア	支援 P、各災害 VC
長靴	多賀城市、塩釜市の災害 VC
デジタルカメラ (含 SD カード)	支援 P (運営支援者が現地で利用)
運営支援者輸送	支援 P (運営支援者の移動に利用)
マスク	支援 P (企業ボラバスで利用)

被災者へ届けられた物資一覧

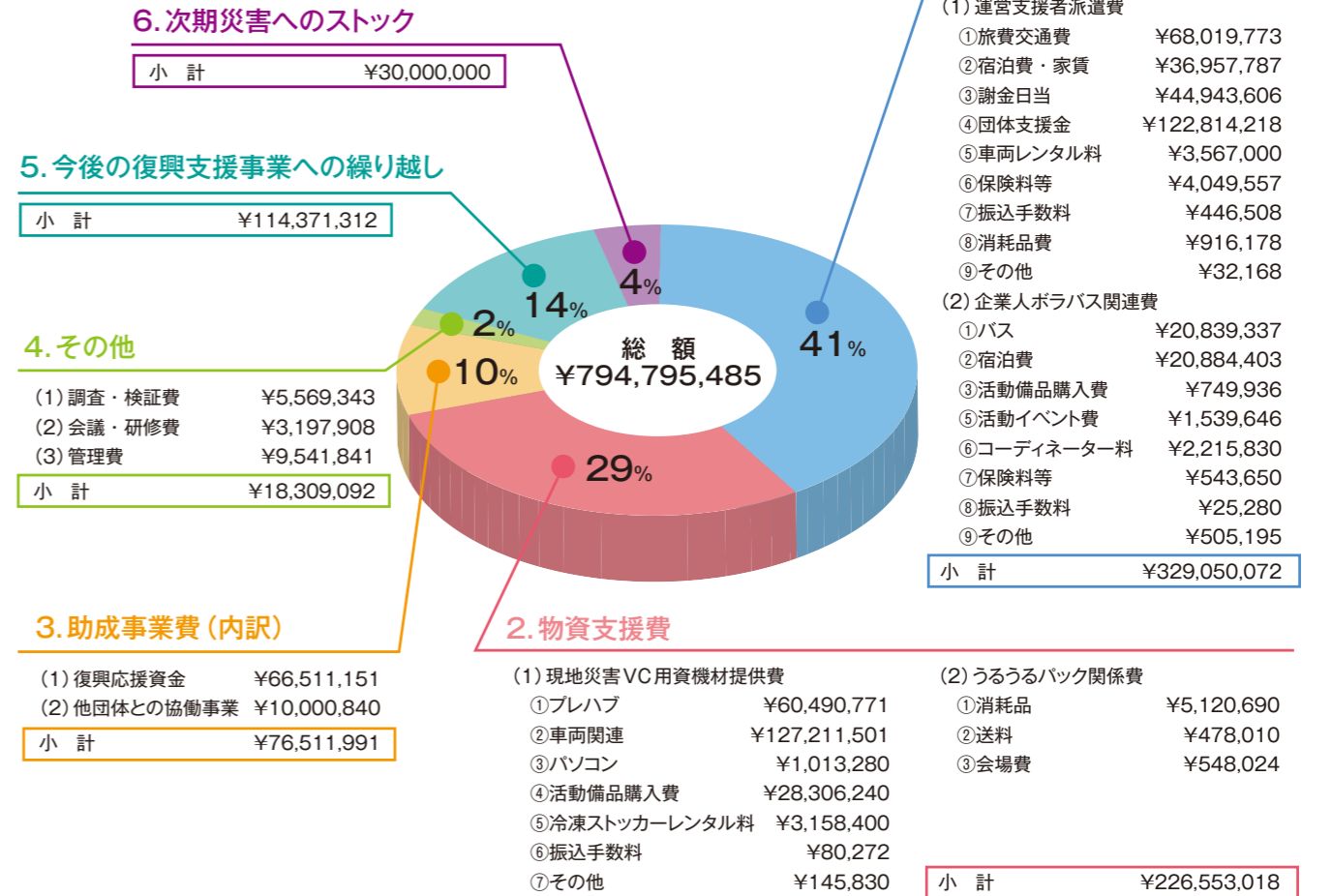
災害 VC を経由して被災者へ	マットレス バスタオル
うるうるバック (小学生向け新学年応援バック)	ステープラー コンパス 下敷き シャープペン ペンケース ポールペン 筆記用具セット クリアファイル 鍵盤ハーモニカ
うるうるバック (中学生向け新学年応援バック)	ノート 鉛筆 鉛筆削り 消しゴム 定規 カッターナイフ テープのり
うるうるバック (ともだちバック)	知育玩具 自由画帳 パズル トランプ 歌集 画用紙 楽器 クレヨン ぬいぐるみ くじ 菓子
うるうるバック (レディースバック)	基礎化粧品 シャンプー&リンスミニベアセット 乳酸菌飲料 絆創膏 綿棒 エコバッグ ポケットティッシュ
うるうるバック (子ども日用品バック)	運動靴 弁当箱 折畳傘 長傘 保温水筒 スクールバッグ

物資提供企業一覧

あいおいニッセイ同和損害保険(株) ゆにぞん募金/旭硝子(株) / (株) アシックス/味の素(株) / SMBC日興証券(株) / (株) エヌ・ティ・ティ・ドコモ/エプソンダイレクト(株) / 花王(株) / (株) カネボウ化粧品/キヤノン(株) / キリンホールディングス(株) / KDDI(株) / (株) 神戸製鋼所/興和不動産(株) / コクヨグループ / (株) 小松製作所 / (株) コロンビアスポーツウェアジャパン/JNC(株) (元 チッソ(株)) / 住友化学(株) / 住友ゴム工業(株) / 積水化学工業(株) / (株) 全音楽譜出版社/全日本空輸(株) / ソニー(株) / ソフトバンク(株) / (株) 損害保険ジャパン / (株) 第一ビルディング/立山科学工業(株) / TSUCHIYA(株) / 帝人(株) / デル(株) / 電気事業連合会 / (株) 東芝 / 東映アニメーション(株) / トヨタ自動車(株) / 中日本高速道路(株) / 日興企業(株) / (株) 日本航空/日本生命保険(相) / 日本たばこ産業(株) / 日本電気(株) / 日本ハム(株) / 日本マイクロソフト(株) / 富士通(株) / (株) プリチストン / (株) フレーベル館 / (株) ベネッセコーポレーション/本田技研工業(株) / 三井住友海上火災保険(株) / 三菱商事(株) / (株) 明治/森永乳業(株) / ヤマハ(株) / ユニ・チャーム(株) / (株) 淀川製鋼所/リソー教育(株) / ルノー・ジャポン / レノボ・ジャパン(株) 以上59社・団体 ※その他、個人、NPO等からの提供あり

企業・団体からの寄付(含 企業人ボラバス参加費)は、総額794,795,485円となり、2013年度末までに650,424,173円を支出しました。今後、ネットワーク組織としての強みを活かして、社会福祉協議会やNPOの連携を促進し、企業とも協働しながら復興支援に取り組みます。あわせて、検証や研修を行うとともに、今後の災害にも備えます。

2011~2013年度支出



資金提供企業一覧

アイエックス・ナレッジ(株) / (株) アウトソーシング/NRIサイバーパテント(株) / NRIデータiテック(株) / NRIネットコム(株) / NRIプロセスイノベーション(株) / (株) NTTドコモ / MS&AD インシユアランスグループホールディングス(株) / 花王ハートポケット倶楽部/菊水電子工業(株) / キリンホールディングス(株) / 興国インテック(株) / 高知県経営者協会 / (株) ザ・キッス / (株) サンゲツ / (株) J-オイルミルズ / JAL旭川整備 / JALグループ社員/住友化学(株) / ソニー(株) / (株) ソニー・コンピュータエンタテインメント / (株) 損害保険ジャパン / 千代田化工建設(株) / (株) テクノ電子 / (株) 電通 / (株) 東京金融取引所 / (株) トリコン / 日鉄住金ロールズ(株) / (一社) 経団連事業サービス / 日本オート・フォート(株) / (社) 日本歌手協会 / 日本証券金融(株) / 沼津通運倉庫(株) / (株) ノビーカンパニー / 野村ホールディングス(株) / (株) 博報堂DYメディアパートナーズ / パブコック日立(株) / パブコック日立部課長会 / BHKエコークラブ、パブコック日立労組 / (株) ビーコン インフォメーションテクノロジー / ファイザー(株) / 富士通(株) / (株) ベッコアメ インターネット / 三菱重工業(株) / 三菱重工プラント建設(株) / (株) 安川電機 / アズビル(株) (元(株) 山武) 以上47社・団体 ※その他、団体1・個人1

被災地コミュニティの復興を応援する助成事業

「復興応援資金」は、復興に向けてさまざまな人のつながりや組織・団体間のつながりを育み、ネットワークの強化や被災地域コミュニティ再興を支援する事業を応援することを目的としています。東日本大震災において支援Pと連携してスタッフを派遣した団体を対象に、2012年度には5団体、2013年度には前年度からの継続助成として3団体を採択、助成総額は66,511,151円となりました。

2012年度・2013年度継続助成

(特非) 日本ボランティアコーディネーター協会

福島県内の社会福祉協議会や被災者・避難者の生活支援活動を行っているNPOと協働し“生活支援相談員のためのハンドブック”を作成しました。このハンドブックを生活支援相談員や関係者に配付するとともに、社協やNPO、中間支援組織と連携した研修会を生活支援相談員や復興支援に取り組むスタッフを対象に実施、コーディネーション力と支援力を高めることにつながりました。また単発の研修会開催にとどまらず訪問して話を伺うアウトリーチ型の活動を通じて、支援者たちのニーズをキャッチし、チーム活動へのサポートや個別のスーパーバイズを行いました。



2012年度・2013年度継続助成

東日本大震災支援全国ネットワーク (JCN)

東日本大震災支援に関わる団体のネットワークを活かし、団体間およびセクター間の更なる連携促進を行うため、岩手県、宮城県、福島県に地域コーディネーターをそれぞれ1人ずつ配置しました。地域コーディネーターは支援活動を行う団体を訪問したり、連絡・調整会議に出席し、類似した問題に取り組む団体同士のマッチングと顔の見えるネットワーク構築を行いました。また連携促進のため、岩手県・宮城県・福島県にて100名規模のJCN現地会議を2012年度・2013年度合わせて20回以上開催しています。



2012年度・2013年度継続助成

(特非) レスキューストックヤード

宮城県七ヶ浜町の社会福祉協議会や復興ボランティアセンターと協働し、延4万人のボランティア名簿の整理とメールマガジンの配信を行いました。また主に七ヶ浜の子どもで構成しているミュージカル劇団が支援のお返しとして県外公演を希望、これを応援し東京と名古屋で開催、会場は感動に包まれました。仮設住宅での生活が長引く七ヶ浜では、地区の絆を再構築するための交流の場づくりや高齢者宅への訪問、足湯ボランティア等、地元密着型の支援活動を行っています。



2012年度助成

(社福) 大阪ボランティア協会

主に気仙沼の社会福祉協議会ボランティアセンターや地元グループ、生活支援相談員を対象としたボランティアコーディネーションの仕組み改善やスキル向上、気仙沼市が事務局を担う支援者の連携・協働を支援するための会議運営のサポートや、ファシリテーション研修会の講師を担当しました。ボランティアコーディネーションのプロセスの見直しや、地元グループの運営ビジョンの検討にもかかりました。



2012年度助成

(特非) 難民支援協会

陸前高田市災害ボランティアセンターと協働し、地元のニーズと市内で活動する支援団体とのマッチング、支援団体の課題・成果共有のための連絡会開催、連絡会運営のための準備会設置を行いました。新規に市内で活動を希望する支援団体の受入れコーディネーションやニーズとのマッチングにも注力し、支援格差の回避と適切な支援を提供する役割を担いました。



特別共催



～もっとツナガリあうことで、
これからの東北を支えたい～

東北応援ビレッジとは、被災地各地からの手作り品や物品に囲まれた中で、交流を深め、これからの被災地支援を語るイベントです。JCNの参加団体有志による実行委員会が主催し、2013年3月29日から30日にかけて東京・汐留で開催されました。地域PRスペースには、東北の物産・手作り品・食品・飲料などを販売する18団体が参加しました。ステージでは7組が被災地での活動紹介、体験談の語り、伝統芸能や演奏を行いました。メッセージ・ウォールには684名からのメッセージが集まり、桜の木を満開にすることができました。東北応援ビレッジには4,900名が来場、企業人110名を含む139名がボランティアとして参加し、「忘れない」ためにわたしたちに何ができるのかを考える機会となりました。



災害ボランティア活動支援プロジェクト会議は企業、NPO、社会福祉協議会、共同募金会等により構成されるネットワーク組織です。2004年の新潟中越地震の後、2005年1月より中央共同募金会に設置されました。

平常時には、災害支援に関わる調査・研究、人材育成や啓発活動を行うとともに、災害時には多様な機関・組織、関係者などが協働・協力して被災者支援にあたります。

被災地支援では、人材・物資・資金など多くの社会資源が有機的かつ有効に活かされることが大切です。支援Pでは被災者の声に耳を傾けながら被災者中心・地元主体の支援となるよう、ネットワークを最大限活かして支援にあたっています。



構成団体・メンバー ★は幹事

社会福祉協議会

佐甲 学★
全国社会福祉協議会
全国ボランティア・
市民活動振興センター

北川 進
宮城県社会福祉協議会

戸崎 洋子
諏訪市社会福祉協議会

西原 弘将
大阪府社会福祉協議会

共同募金会

阿部 陽一郎★
中央共同募金会

鷹尾 大英
福井県共同募金会

中島 孝夫
神奈川県共同募金会

NPO・NGO

石井 布紀子★
さくらネット

栗田 暢之★
レスキューストックヤード

桑原 英文★
コミュニティ・4・チルドレン

白鳥 孝太
シャンティ国際ボランティア会

田尻 佳史★
日本NPOセンター

山岸 孝博
元 中越復興市民会議

山口 誠史
国際協力NGOセンター

李 仁鉄
にいがた災害ボランティアネットワーク

企業・団体

鬼山 雅子
日本航空(株)

野上田 縁
(株)損害保険ジャパン

佐藤 英次
日本青年会議所

山内 明子
日本生活協同組合連合会

山ノ川 実夏
MS&AD インシュアランス
グループホールディングス(株)

1% (ワンパーセント) クラブ★

臨時委員

後藤 麻理子
日本ボランティア
コーディネーター協会

長谷部 治
神戸市社会福祉協議会

事務局連絡先：中央共同募金会 企画広報部
さくらネット

Tel. 03-3581-3846
Tel. 0798-64-5829

URL：http://www.shien-p-saigai.org/

発行：2014年3月28日（修正版）